



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館におけるトレンド：機関リポジトリを中心に
Author(s)	逸見，勝亮
Description	主催：ドイツ文化センター、シンポジウムのパートナー：国立情報学研究所、日本医学図書館協会、日本図書館協会、後援：国際交流基金
Relation	シンポジウム「学術情報ネットワーク：日本とドイツの新たなトレンド」。平成20年10月1日。東京都。
Issue Date	2008-10-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/39255
Type	lecture
File Information	GI081001.pdf



2008年10月1日(水)、東京ドイツ文化センター

シンポジウム：学術情報ネットワーク 日本とドイツの新たなトレンド

北海道大学附属図書館におけるトレンド：機関リポジトリを中心に

逸見勝亮（北海道大学理事・図書館長）

はじめに

Goethe-Institut が開催するシンポジウムにおいて報告する機会を与えられたことは、誠に光栄です。

僕の報告の内容は以下の通りです。

- I 北海道大学と附属図書館の概要
- II 北海道大学附属図書館における機関リポジトリの展開
- III 北海道大学附属図書館における本当のトレンド：結びにかえて

I 北海道大学と附属図書館の概要

- 1 2007年5月1日現在の北海道大学の概要は以下の通りである。詳細は《別紙1》を参照されたい

北海道大学は、12の学部、17の大学院、27の研究所、1の大学病院、1の動物病院、1の附属図書館を擁し、11,833人の学部学生、6,389人の大学院学生、864人の留学生が学んでおり、教員は、教授741人、准教授620人、講師100人、助教565人、助手24人、合計2,050人であり、1,834人の職員が働いている我が国有数の国立大学である。

- 2 附属図書館の概要

- 1) 図書館は、本館、北分館、16の学部・研究所図書室からなり、事務部長を筆頭に94人の正規職員と22人の契約職員を配置している。
- 2) 図書館長は理事・副学長が、副図書館長は教授が兼任している。理事の任命は学長の権限に属し、副図書館長は図書館長が決定する。一方で、図書館長は事務部長の勤務評定案を作成するだけで、正規職員の人事権はすべて事務局長である理事に属している。
- 3) 図書館に関する最高意志決定機関は、図書館長、副図書館長、各学部・研究所が選出した委員、図書館事務部長から構成される図書館委員会である。委員長は図書館長が務める。
- 4) 図書館委員会は、基本方針、役員会が決定した配分金額の運用方針（予算）と決算などを決定する。上記方針の提案と業務遂行は図書館長の責に属する。
- 5) 蔵書数は、2008年3月末現在で図書は267万冊、雑誌は104万冊（8万タイトル）、合計371万冊である。
- 6) 電子ジャーナルは16,000タイトルの利用が可能である。
- 7) 2007年度の図書館利用者（来館者）は97万人であった。但しここには16の学部・

研究所図書室利用者数は含まれていない。

利用者の内、学部学生は53万人で54%、大学院生は14万人で15%を占めた。

レファレンスサービスは3,400件、文献複写は3,200件、北海道大学以外の図書館との図書貸借は2,200冊であった。

8) インターネットを通じた利用については後述する。

II 北海道大学附属図書館における機関リポジトリの展開

1、国立大学図書館長会議における最も重要なテーマは、高騰を続ける電子ジャーナル費用の負担である。電子ジャーナル費用は、図書館予算のほとんど80%を占めており、北海道大学学長も「電子ジャーナルは高い」と言っている。しかし、自然科学諸領域の占める割合が大きい北海道大学では、研究就中自然科学諸領域の研究にとって既に不可欠の「道具」である電子ジャーナルを確保し続けなければならない。

2、インターネットを通じた、2007年度の附属図書館トップページ・附属図書館蔵書検索システム・電子ジャーナル・学術文献データベース・北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）・北方資料データベース・北方資料データベース画像の利用件数は、それぞれ95万・1,230万・210万・73万・83万・7万・31万で、総計は1,729万に達する。

北大蔵書検索システム利用ページ数1,230万のうち、学外からの利用は805万で65%を越え、北方資料データベース画像のそれは31万で99%にもおよぶ。これらの数値の多寡を論ずるに足る資料を持ち合わせていないが、電子的利用の数値は所蔵図書・資料利用の重要な指標である。北海道大学附属図書館は、インターネットを通じて広範囲なひとびとと結びついている。これは、大学図書館の環境が社会の情報化に連動して激変を遂げつつあることを示している。換言すれば、我が大学の図書館は多数の、しかも不特定のひとびとの眼に曝されているのである。大学から発信しているつもりが、今や逆に衆人環視のもとにあると言っても過言ではない。

3、このような状況のもとで、北海道大学学術成果コレクション（Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers:HUSCAP）は、国立情報学研究所のCSI（Cyber Science Infrastructure：最先端学術情報基盤）事業の委託を受けて2005年7月から試行公開を、2006年4月には正式運用を開始した。

HUSCAPは、北海道大学に所属する研究者の研究論文、学会発表資料、教材など、「北海道大学が産み出した研究成果」を公開するための機関リポジトリである。

4、HUSCAPの経緯概略は以下のようである。

2004年 5月 NII学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト参加

7月 学術情報ポータル検討WG設置

10月 図書館委員会へ「北海道大学における学術機関リポジトリの在り方について（報告）」を提出

- 11月 「学術情報の発信に関するアンケート」実施（～1月）
- 2005年 3月 サーバ機器導入、第1期実験運用（～5月）本人登録制・学内限定公開
- 4月 学術リポジトリ検討WG設置
- 5月 図書系職員向け学内説明会
- 6月 図書館委員会へ「学術リポジトリ（仮称）実験運用について」を提出
- 7月 第2期実験運用（～06年3月）、学外公開
- 8月 研究者向け学内説明会（～9月）13会場28回
2005年度国立情報学研究所CSI事業受託決定
- 11月 ハスカップ・ビール醸造、図書館委員会下に学術成果発信小委員会設置
HUCAPレター（登録文献紹介）創刊（2008年8月に第10号）
- 12月 文献DB調査に基づく週次文献寄贈依頼開始
- 2006年 1月 「HUSCAP：北海道大学学術成果コレクションに関するアンケート」実施
- 2月 Open Repositories 2006（シドニー）成果発表
- 3月 附属図書館講演会「学術情報流通の世界的動向と大学」
図書館委員会で「北海道大学学術成果コレクション運用要項・同資料受入要項・同利用要項」決定
- 4月 正式運用開始、図書館前庭花壇にハスカップ植樹
- 5月 累計ダウンロード数10万件突破
- 6月 高頻度閲覧文献リストの公開開始、ダウンロード数通知サービス開始
- 8月 2006年度国立情報学研究所CSI事業受託
- 11月 登録文献10,000件突破
- 2007年 3月 CSI国内優良コレクションに選定される
- 4月 2007年度国立情報学研究所CSI事業受託
- 6月 全学部・研究所で説明会実施（～11月）
- 7月 累計ダウンロード数100万件突破
- 10月 登録文献20,000件突破
- 11月 北海道大学学術成果コレクション運営方針制定
- 2008年 7月 2008年度国立情報学研究所CSI事業受託
- 8月 登録文献コンテンツ25,000件突破

5）HUSCAPの現状は以下のようである。

①登録文献・ダウンロード数の推移（2006～08年）は《別紙2》を参照されたい。

▲が登録文献数、■がダウンロード数を示している。登録文献数は2008年8月31日現在25,114件、ダウンロード数は1,847,337件である。2006年6月にはそれぞれ8,720、184,893であったのだから、26ヶ月の間に登録文献数は2.9倍、ダウンロード数は10倍となった。

②HUSCAPに登録した研究者数とその属性は右の表の通りである。

教員の49%に相当する998人が登録している。

すなわち418人の教授、309人の准教授、40人の講師、231人の助教が登録している。

教員は2005年以降に北海道大学に在籍していたが、転出あるいは退職している教員を含んだ数字である。

大学院生の登録者は今は微々たるものでしかない。

属 性	登録者数
教 授	418
准教授	309
講 師	40
助 教	231
小 計	998
大学院生	75
その他*	91
合 計	1164

*学術研究員、技術職員、医員等

③HUSCAP登録文献数は2008年8月31日現在25,114件、ダウンロード数は1,847,337件であることは先述した。

登録文献の内訳は以下の表のとおりである。

	登録文献数(A)	ダウンロード回数(B)	B/A
学術雑誌論文	2,620 (10.43)	436,705 (23.73)	167
紀要論文	21,829 (86.91)	1,165,587 (63.34)	53
教材	24 (0.01)	173,111 (9.40)	7,213
学会発表資料等	641 (2.55)	64,589 (3.51)	101
合計	25,114 (100%)	1,839,992 (100%)	73

学部・研究所の紀要論文は21,829で87%を占め、学術雑誌論文は2,620で10.43%、学会発表資料は641で2.55%、教材はわずか24で0.01%である。

ダウンロードされた登録文献のうち、上位50編を《別紙3》に掲げた。

一見して明瞭なように、井上純一（工学部教授）、池田清治（法学部教授）、井上芳郎（医学部教授）の教材が1～10位、15～17位を占めている。登録文献数は24件とごくわずかに過ぎない教材が上位をほとんど独占してしまうとは、HUSCAP発足当初にはまったく予想していなかったはずである。

登録文献中最も多数を占める紀要論文が、数値的にみれば最も多く利用されているのは当然である。50件中17件は紀要論文であることは、査読のない紀要論文を学術論文とみなさない傾向は、内容を吟味しようとしめない形式主義に陥った謬見と断じてよい有力な証拠である。学術的に価値のない論文に2,000も3,000もアクセスがあろうはずがない。

雑誌論文とは査読のある学術雑誌掲載論文は、上位50件中15件である。登録数・ダウンロード数ともに紀要論文の三分の一に過ぎないが、1件当たりのダウンロード数は167であり、1件当たり53である紀要論文に比較すれば3倍以上となる。7,213という教材の利用頻度

には及ぶべくもないが、学術雑誌論文の利用頻度は高いのである。

④研究者にとってHUSCAPに登録する意義はどのようなものであろうか。

《別紙3》の11番目は僕の「自衛隊生徒の発足—1955年の少年兵」、35番目は「皇后のバスケット—集団疎開学童ニ対シ御激励ノ思召」で、ダウンロード数はそれぞれ5,890と1,859である。両論文とも教育史学会『日本の教育史学』に投稿して掲載された。現代日本教育史の領域に属する研究成果である。「自衛隊生徒の発足」に類する文献は『少年自衛隊』（安田武、東書房、1956）があるのみである。「皇后のバスケット」に類する文献を僕は知らない。960人ほどの教育史学会会員中、日本教育史専攻者は500人前後であり、ダウンロードの大部分は専門家以外のひとびとによるものと判断して差し支えない。僕は、「自衛隊生徒の発足」は自衛隊関係者、「皇后のバスケット」は学童集団疎開体験者がダウンロードしたと想像している。僕はHUSCAPを通じて専門家の集団を遥かに越えた読者を得たのである。

このような個人的経験を敷衍して、HUSCAPは「専門家の集団を遥かに越えた読者」を対象に、大学における研究に関する説明責任を果たすことにあると述べることは許されるだろう。

6) 以下にHUSCAPの課題を掲げた。

①登録文献就中学術論文の増加が最重要課題である。研究者へ登録するよう働きかける工夫を凝らす必要がある。そのための試みとして、改訂したHUSCAPトップページを《別紙4》に示した。下段の旧版との相違を確認できるはずである。

②北海道大学は、2007年11月22日に学長の裁定を経て「北海道大学学術成果コレクション運営方針」を定めた。全文は《別紙5》を参照されたい。

「運営方針」では今後の方向性について以下の3点を強調している。

- ・北海道大学は、本学に所属し教育研究活動を行うすべての研究者に、その多様かつ高度な成果を「北海道大学学術成果コレクション運用要項」にしたがって、本コレクションにおいて公開することを強く奨励する。
- ・北海道大学は、本コレクションの持続的な発展と恒久的な保存に務め、社会貢献の責務を果たすのみならず、オープン・アクセスを通じて成果を享受する者と創出する者との相互作用を促し、その効用が更なる知的発展をもたらすことを企図する。
- ・北海道大学は、附属図書館が本コレクションを運用する十全な体制を整えるために不断に努力する。

僕は上記事項を、遠からず「本学に所属し教育研究活動を行うすべての研究者は…
…本コレクションにおいて公開することを義務とする。」と改めたい。

「十全な体制を整えるために不断に努力する」という立場を踏まえ、大学本部は今年度HUSCAPに数百万円の予算を投入した。来年度以降も持続的に投入し、いずれは増

額をはかることになるであろう。このような条件は「義務化」を促す好条件として作用することは疑いない。

②図書館職員の力量を発揮する環境を整備する必要がある。図書館職員が「多様かつ高度な成果」がいかなる過程をたどって生み出されるのかを理解できなければ、HUSC AP登録を義務化することは手間取るであろう。そもそも、研究者との対等な 対話なしに登録文献を増加することは不可能である。「研究過程」論は図書館職員の研修テーマのひとつである。技術論を脱しなければならない。

Ⅲ 北海道大学附属図書館における本当のトレンド：結びにかえて

キーボードをたたき、画面を見つめるのは単純で機械的な作業である。僕は、キーボードをたたけば文字が現れるのはなぜかを知らないまま、便利さに依存してコンピューターを利用していることに不安をおぼえる。図書館で本を探し、ページをめくり、メモを作成する過程とは明瞭に異なっている。

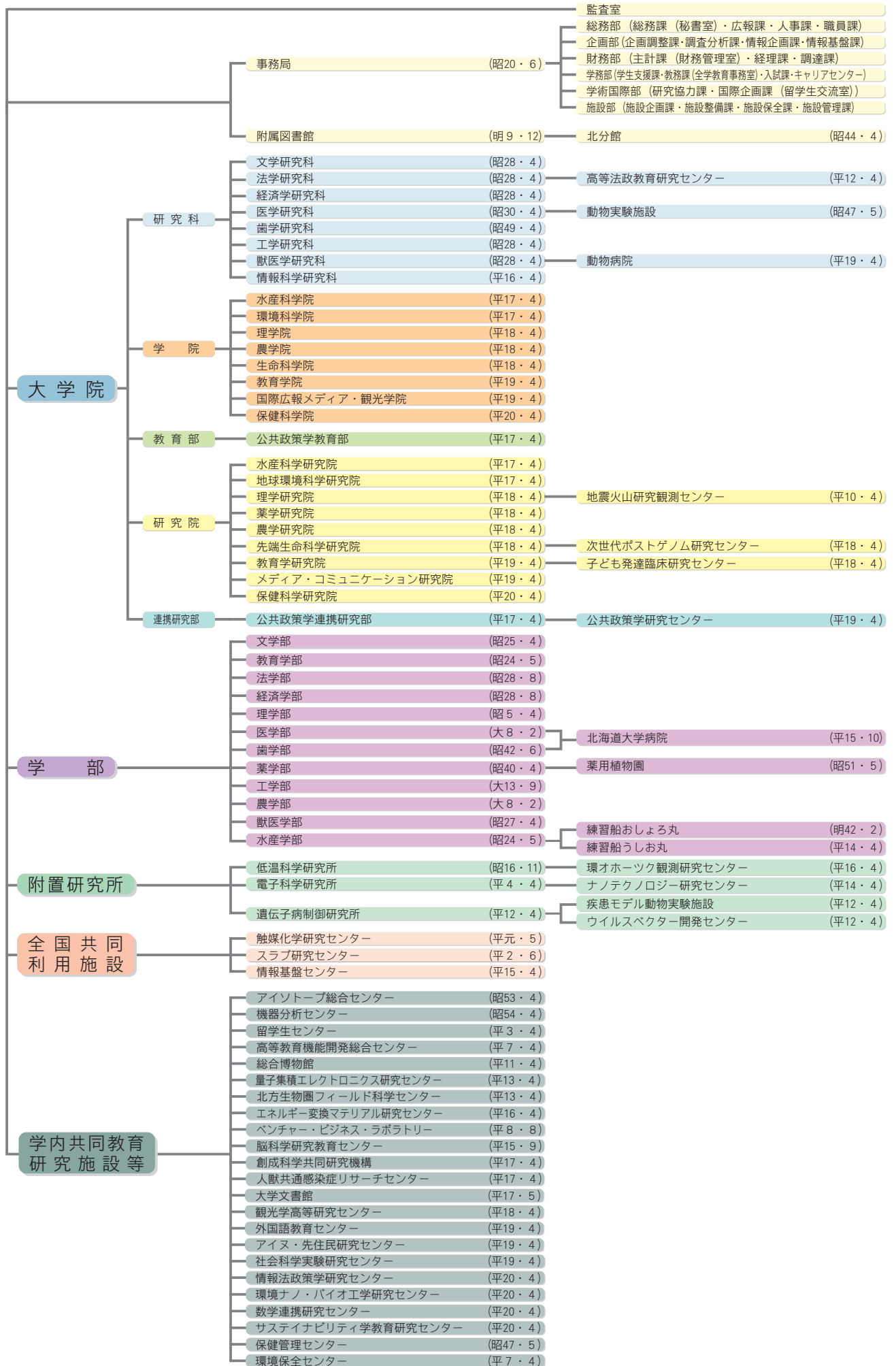
奈良女子大学附属図書館沿革史料の利用を例示しよう。

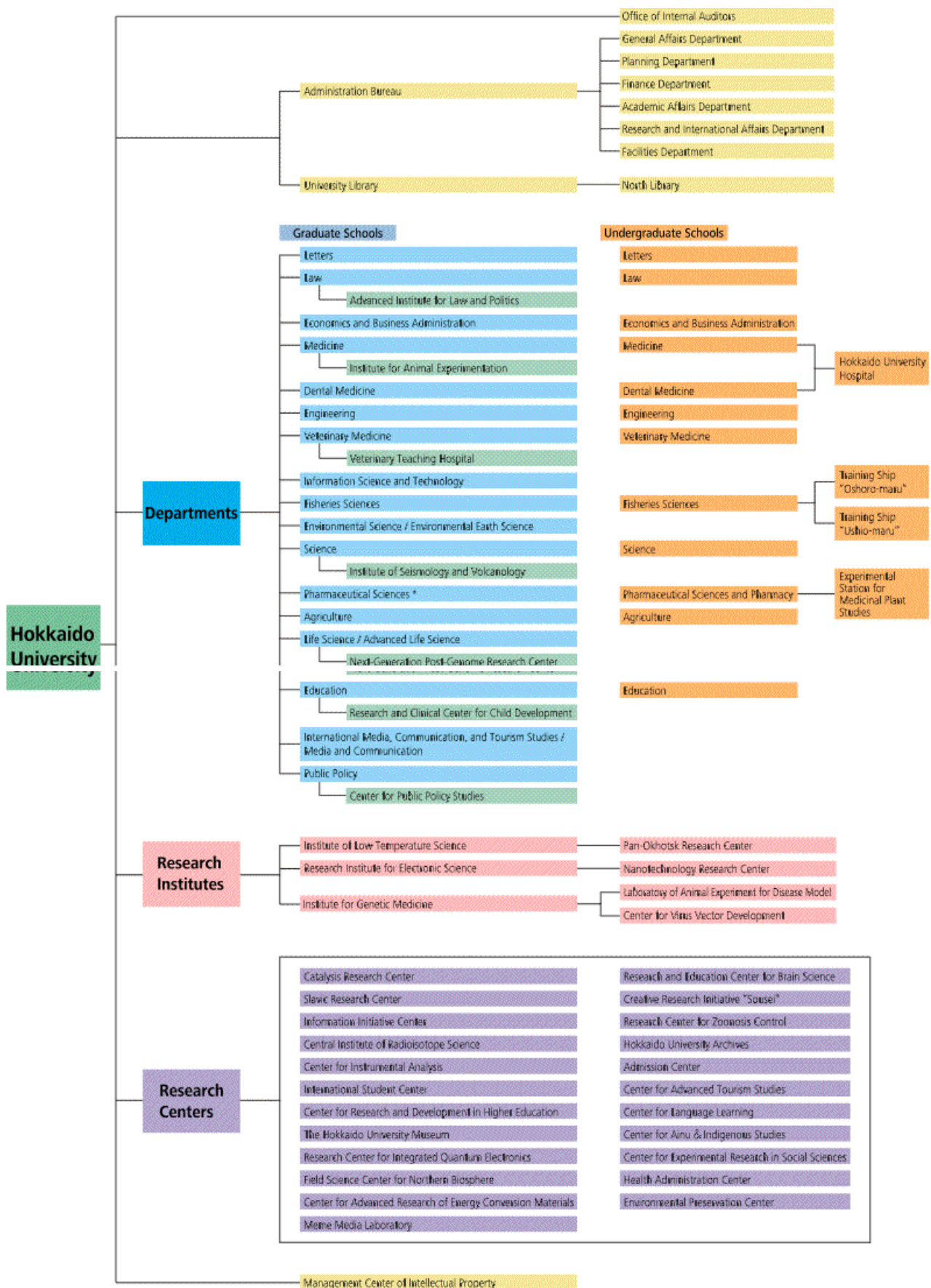
奈良女子大学附属図書館「画像で綴る奈良女子大学の九十年」で、奈良女子高等師範学校沿革史料の一部を読むことができる。しかし、画像化されているのはごく一部で、史料のコピー・写真撮影は許されていない。大部分は奈良女子大学へ出向き、鉛筆で筆写するしかない。筆写は複写やコンピュータで史料を収集するのとは異なっている。然るべき史料を探索するには、目録を頼りに史料を読み、筆写相当箇所を確認して筆写しながら、原文とメモとを往復し、筆写後に遺漏の有無を確かめるために、原文とメモとを往復する。この迂遠な作業を通じて、僕はどうしても3回は史料を読むのである。「読み書き」で収集した史料の記憶は視覚的にも鮮明で、濃密な思索を促す。

研究に不可欠である図書館の情報化は、放っておいても進む。北海道大学附属図書館の最大の責務は、最大の利用者である学生の学習に貢献することである。学生の図書館利用を促すには、蔵書の充実が不可欠である。教員は、図書館を利用すれば、濃密な授業準備・復習が可能となることを指し示す必要がある。研究をしている人こそが「学問の方法」を教えられる。

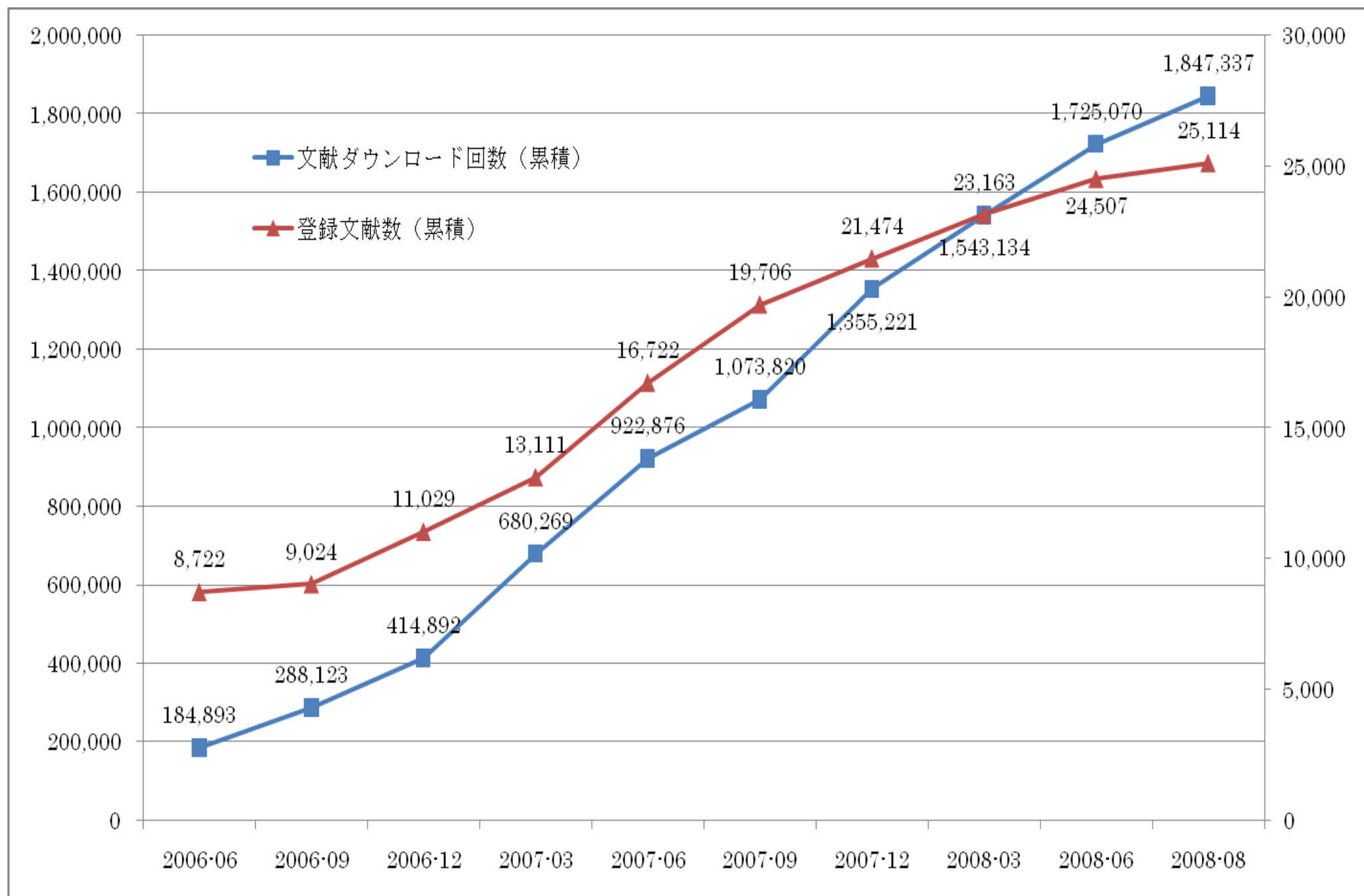
2008年5月のある日、札幌市内の中学生を附属図書館閲覧室と書庫に案内する機会があった。5分にも満たない短時間の見学だったが、生徒達は蔵書の多さに眼を瞠った。後日送られてきた感想文には、一様に「沢山の本があるのに驚いた」と記してあった。

〈統計は野中雄司・杉田茂樹氏の手を煩わせたことを記してふたりへの謝辞にかえる。〉





《別紙2》登録文献および文献ダウンロード数の推移（2008年8月31日現在）



《別紙 3》ダウンロード回数トップ 50（2008 年 8 月 31 日現在）

	回数	書誌事項	種別
1	26,144	井上, 純一. 2004 年度 グラフ理論講義ノート	教材
2	21,183	池田, 清治. 民法入門(平成 18 年度)	教材
3	19,770	井上, 芳郎. 解剖学実習指針	教材
4	19,748	井上, 純一. 2005 年度 グラフ理論講義ノート	教材
5	16,014	井上, 純一. 2005 年度 情報理論講義ノート	教材
6	12,840	井上, 純一. 2004 年度 情報理論講義ノート	教材
7	12,626	井上, 芳郎. 統合・基礎神経学 - 神経系の構造を中心に	教材
8	10,681	井上, 芳郎. 基本顕微構造解析法 I・II	教材
9	7,905	井上, 純一. 2004 年度 混沌系工学特論講義ノート	教材
10	6,011	井上, 純一. 2006 年度 グラフ理論講義ノート	教材
11	5,890	逸見, 勝亮. 自衛隊生徒の発足 -1955 年の少年兵-	雑誌論文
12	5,797	井上, 芳郎. 解剖学と医学: 今と昔	プレゼン資料
13	5,618	Jin, Xue-Hai. ... [et al]. Molecular epidemiology of adenoviral conjunctivitis in Hanoi, Vietnam	雑誌論文
14	5,535	Yoshimura, Yasuo. A Prospect of Sail-Assisted Fishing Boats	学会発表資料
15	5,505	井上, 純一. 2005 年度 混沌系工学特論講義ノート	教材
16	4,323	井上, 純一. 2007 年度 グラフ理論講義ノート	教材
17	3,684	井上, 芳郎. 神経構造解析法 I・II	教材
18	3,030	杉山, 英一. ... [et al]. 廃プラスチック油化→フィードストックリサイクルの進展	紀要
19	3,018	表山, 和樹. ... [et al]. 癌細胞における細胞増殖抑制とアポトーシス	雑誌論文
20	2,959	行木, 孝夫. 北大の実験と可能性 --- メタデータ交換プロトコル OAI-PMH に準拠した e-print サーバ構築	雑誌論文
21	2,817	服部, 祥治. 新規評価方法 OASIS を活用した緑茶香气分析に関する研究	紀要
22	2,373	永田, 晴紀. 北海道の CAMUI ロケット	プレゼン資料
23	2,318	前田, 智雄. アスバラガスー代雑種の効率的採種法及び生理活性機能向上に関する基礎的研究	紀要
24	2,307	富永, 靖徳. ... [et al]. 水の動的構造 : ラマン散乱分光	紀要
25	2,300	飯高, 敏晃. 太陽系外生命の第一原理計算をめざして : メタンハイドレート新高圧相など	紀要
26	2,286	増田, 清敬. わが国の農業分野における LCA 研究の動向	紀要
27	2,278	田中, 順一. ... [et al]. Sn-Ag-Al 系合金/Cu 接合による界面溶解反応と熱疲労サイクル特性	雑誌論文
28	2,265	落合, 宏. WC-Ni 超硬合金の溶接残留応力に関する研究	学位論文
29	2,116	井上, 純一. EM アルゴリズムの動的性質 : 確率推論におけるマイクロとマクロの絡み合い	雑誌論文
30	2,049	曾, 碩文. 子どもの戸外遊び環境としての公園整備に関する研究	紀要

31	2,042	江沢, 辰広. ... [et al]. アーバスキューラー菌根における物質代謝と輸送: 4億年前に確立された共生システムへの温故知“最新”的アプローチ	雑誌論文
32	2,036	河村, 雄行. H ₂ O の全自由度分子モデルと, 水・氷等の分子シミュレーション	紀要
33	1,981	Miyashita, Yayoi. An Application of a Narrative Theory to Romeo and Juliet : Orientation and Manipulation of the Audience's Sympathy	雑誌論文
34	1,875	寺倉, 清之. ... [et al]. 第一原理分子動力学法による水の物理・化学的性質のシミュレーション : 超臨界水と高圧下メタンハイドレート	紀要
35	1,859	逸見, 勝亮. 皇后のビスケット -集団疎開学童ニ対シ御激励ノ思召-	雑誌論文
36	1,840	本堂, 武夫. 氷の塑性異方性と転位 : 立方晶 Ic 構造がもたらす六方晶 Ih の特異な物性	紀要
37	1,786	行木, 孝夫. セルオートマトンとエルゴード理論	雑誌論文
38	1,669	Yoshida, Fumikazu. The Cyclical Economy of Japan	紀要
39	1,631	高橋, 義文. 発展途上地域における農業活動の持続性評価に関する研究 : ecological footprint と emergy flow model による分析	紀要
40	1,628	鈴木, 寛. ... [et al]. 分子動力学シミュレーションによるスメクタイト層間水の構造と物性の研究	紀要
41	1,602	Matsushita, D.. Hodge Theory and Algebraic Geometry	紀要
42	1,512	Yamaguchi, Taichi. ... [et al]. Effects of static stretching for 30 seconds and dynamic stretching on leg extension power.	雑誌論文
43	1,503	須戸, 和男. アメリカの通商政策と対外租税政策の相互関係 : 多国籍企業の展開を媒介として	紀要
44	1,449	Yoshimura, Yasuo. ... [et al]. Application of Push-Pull Control Slipping Clutch to the Marine Propulsion System	雑誌論文
45	1,443	倉谷, 英和. 水安全計画による水道のリスク管理について	紀要
46	1,371	Uchida, Tsutomu. ... [et al]. Decomposition of methane hydrates in sand, sandstone, clays and glass beads	雑誌論文
47	1,366	Nabeshima, Takako. La communauté villageoise et l'État dans le contexte de la construction du socialisme africain pendant les quarante dernières années du XX ^e siècle	学位論文
48	1,340	小池, 直. ... [et al]. ブランド力の構成要素を考慮した農畜産物における地域ブランド力の計量分析 : インターネットリサーチからの接近	紀要
49	1,313	Yoshimura, Yasuo. ... [et al]. Design of a Small Fisheries Research Vessel with Low Level of Underwater-Radiated Noise	雑誌論文
50	1,308	Ueda, Tamon. ... [et al]. Interface bond between FRP sheets and concrete substrates: properties, numerical modeling and roles in member behaviour	雑誌論文

《別紙4》 HUSCAP トップページ新旧版の比較

北海道大学学術成果コレクション : HUSCAP - Mozilla Firefox

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 履歴(S) ブックマーク(B) ツール(T) ヘルプ(H)

http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/index.jsp

北海道大学学術成果コレクション
HUSCAP
 Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers
 Copyright(c) 2005 Hokkaido University Library, All Rights Reserved.

北海道大学
 HOKKAIDO UNIVERSITY

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers >

English Japanese
 表示対象: 全文献

北海道大学所属の研究者や大学院生が著した学術論文、学会発表資料、教育資料等を閲覧できます(→もっと読む)。
 一部の論文については、版権上の都合により、著者自筆原稿ファイル(画面上、「author version」と記しています。)を収録しています。著者自筆原稿ファイルは、ピアレビューの完了し学術的内容の確定した段階のもので、実際の誌面とはレイアウトの相違や、字句校正レベルの異同があることがありますのであらかじめご了承ください。

**<学内の方へ>
 HUSCAPで著作を公開するには**

トピック

- 25,000編目は理学部学生から！(平成20年8月11日)
- 北海道大学学術成果コレクション運営方針を掲載しました。(平成19年11月22日)
- 本コレクションの収録文献数が20,000編を超えました。(平成19年10月15日)
- 本コレクションの閲覧数が100万回を超えました。(平成19年7月12日)
- 本コレクションの収録文献数が10,000編を超えました。(平成18年11月15日)

今後ともコンテンツの公開に努めてまいります。よろしくお願いいたします。

検索:

表示対象の指定状態にかかわらず、全ての言語の文献が検索されます。

Scholarly Journals
 published by Hokkaido University

Theses
 granted by Hokkaido University

Conference Proceedings
 hosted by Hokkaido University

北海道大学サステナビリティ・ウィーク2008発表資料アーカイブ
 北海道大学サステナビリティ・ウィーク2008ウェブサイトはこちらです。

北海道大学学術成果コレクション
HUSCAPレター
 (in Japanese only)
 →バックナンバー

最新号: No. 10 (Sep. 2008)
 採目: ます「初めての論文」

HUSCAPで
 著作を公開
 するには

ツール
 完了

ホーム : HUSCAP - Mozilla Firefox

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 履歴(S) ブックマーク(B) ツール(T) ヘルプ(H)

http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/index.en.jsp

北海道大学学術成果コレクション
HUSCAP
 Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers
 Copyright(c) 2005 Hokkaido University Library, All Rights Reserved.

北海道大学
 HOKKAIDO UNIVERSITY

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers >

English Japanese
 表示対象: 全文献

北海道大学学術成果コレクション(HUSCAP: Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers)は、本学の研究者や大学院生等が著した学術論文、学会発表資料、教育資料等を保存・公開するものです。

本コレクションについて (Japanese)

※本コレクションに収録された学術論文の多くは専門学術誌等に発表されたもので、一部の論文については、版権上の都合により、著者自筆原稿ファイル(画面上、「author version」と記しています。)を収録しています。著者自筆原稿ファイルは、ピアレビューの完了し学術的内容の確定した段階のもので、実際の誌面とはレイアウトの相違や、字句校正レベルの異同があることがありますのであらかじめご了承ください。

トピック

- 本コレクションの収録文献数が20,000編を超えました。(平成19年10月15日)
- 本コレクションの閲覧数が100万回を超えました。(平成19年7月12日)
- 本コレクションの収録文献数が10,000編を超えました。(平成18年11月15日)

今後ともコンテンツの公開に努めてまいります。よろしくお願いいたします。

検索:

表示対象の指定状態にかかわらず、全ての言語の文献が検索されます。

Scholarly Journals
 published by Hokkaido University

Theses
 granted by Hokkaido University

HUSCAPレター
 (in Japanese only)
 No. 6 (Apr. 2007)
 採見します。「初めての論文」:
 第3回 佐伯 浩 北海道大学理
 事・副学長(現総長)
 「開水路湾曲部の二次流に關する
 研究」
 文献本例は→[こちら](#)です
 No. 5 (Feb. 2007)
 採見します。「初めての論文」:
 第2回 有賀早苗 大学院農学研究
 院・生命科学院教授/女性研
 究者支援室長
 「Studies on the Freeze
 Denaturation of Squid
 Actomyosin」
 文献本例は→[こちら](#)です
 No. 4 (Jan. 2007)
 採見します。「初めての論文」:
 第1回 中村晴星 北海道大学総

HUSCAPへ
 ようこそ

 詳細検索

ホーム

一覧

- 研究科等
- タイトル
- 著者
- キーワード
- 資料種別
- 日付

高頻度閲覧文献

学内の方へ

- ツール
登録利用者
- パスワード変更

完了

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers Administration Policy

November 22, 2007
Hokkaido University

The Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers (hereinafter referred to as "this Collection") is an online system that comprehensively collects, preserves and disseminates, in digital form, research achievements such as papers produced by the university's faculty members and other researchers through education and research activities. This system provides free online access to such achievements for any user, and realizes an institutional repository in our university in keeping with the trend spreading among universities and research institutes in Japan and overseas.

The number of institutional repositories established by education and research institutes around the world has been rapidly increasing. The reasons behind the rapid increase are the worldwide availability of the Internet, accelerating digitization of scientific information and the intention of education and research institutes which aim to improve accountability for education and research activities, and social recognition and valuation by disseminating research achievements via these networks.

The widespread open access concept is another major factor. In the open access concept, research achievements are considered as public properties and open to the public free of charge to return the achievements to society.

With such movements being accelerated around the world, Japan also focuses on the dissemination of information by researchers, and education and research institutes.

For example, the Third Science and Technology Basic Plan points out the importance of research information infrastructure, accountability for scientific technology and the dissemination of information, and proposes the following concrete measures:

- Digital archiving of academic journals etc. should be promoted to disseminate Japan's accumulated research information as assets domestically and internationally.
- Regarding papers published in academic journals in order to publicize research achievements obtained under public funding, they are expected to be available free of charge via the Internet or other media after a certain period.
- Research institutes and researchers should disclose their research activities to society and the public as much as possible, and provide clear explanations about research content and achievements as their basic accountability. In such cases, they should utilize various media effectively and efficiently.

Hokkaido University has the following spiritual legacy from the school's foundation: research as the creation of universal learning in the real world, and emphasis on returning the fruits of research to society by placing importance not only on basic research but also on the application and practical use of research. With such a legacy in mind, it is highly significant that Hokkaido University has established this Collection and leads other universities in Japan in this field.

Under these circumstances, this Collection was launched by Hokkaido University Library in April 2006. For over a year since then, this Collection has received journal papers and academic materials from 788 faculty members and other researchers. This Collection has also digitized and

released 44 bulletins originally published by Hokkaido University's graduate schools etc. As a result, the number of contained articles has reached 21,360 while the global number of visits to this Collection site is 1,233,312, with an average monthly hit count of approximately 60,000 in fiscal 2007 (as of November 22, 2007).

Given all this, Hokkaido University affirms the following basic principles for the operation of this Collection as a foundation for scholarly activities.

1. Hokkaido University strongly recommends that all researchers who belong to the university and conduct education and research activities should publicize their diverse and high levels of achievements on this Collection site in accordance with the Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers' Operational Guidelines.
2. Hokkaido University promotes the sustainable development and eternal preservation of this Collection and contributes to society. The university also facilitates interaction between receivers and creators of research achievements through open access and designs further academic development.
3. Hokkaido University exerts ceaseless efforts to improve an adequate system with which Hokkaido University Library operates this Collection.

《別紙 4 ・ 追加》



北海道大学学術成果コレクション : HUSCAP - Mozilla Firefox

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 履歴(S) ブックマーク(B) ツール(T) ヘルプ(H)

http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/index.jsp?locale=en

北海道大学学術成果コレクション
HUSCAP
Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers
Copyright(c) 2005 Hokkaido University Library, All Rights Reserved.

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers >

English Japanese
Display Mode: All

Welcome to HUSCAP
Go
Advanced Search
Home

Browse
Communities & Collections
Titles
Authors
Subjects
Types
By Date
Top 50 Papers (last 1 month)

How to post your papers to HUSCAP

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers (HUSCAP) contains peer-reviewed journal articles, proceedings, learning objects and any kind of scholarly works of Hokkaido University([read more](#)). Due to publishers' copyright conditions, some of the papers in HUSCAP are the files of author's manuscript stages, which are recorded as "author version". Be aware that "author version" might have some differences in layouts and wordings from the published version.

<for Hokkaido Univ. faculties>
Post your papers to HUSCAP!

Topic

- 11 Aug. 2008, The 25,000th paper from a student in the faculty of science!([News in Japanese](#))
- 22 Nov, 2007, Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers Administration Policy released.
- 15 Oct. 2007, Now 20,000 papers in HUSCAP!([News in Japanese](#))
- 12 Jul, 2007, One million downloads from HUSCAP!([News in Japanese](#))
- 15 Nov. 2006, Now 10,000 papers in HUSCAP!([News in Japanese](#))

We will keep trying our best to open the HUSCAP contents to the public as many as possible.

Scholarly Journals
published by Hokkaido University

Theses
granted by Hokkaido University

Conference Proceedings
hosted by Hokkaido University

Hokkaido University Sustainability Weeks 2008 Official Archive
Hokkaido University Sustainability Weeks 2008 website is [here](#)

北海道大学学術成果コレクション
HUSCAP
(in Japanese only)
→ [show all](#)

No. 10 (Sep. 2008)
picked up paper:
[Miyachita Y.](#)

完了